

沖縄県医師会事務局 庶務課 藤野、宮城 行き  
(FAX:098-888-0089)

※回答期限：令和6年2月1日(木)迄

## 「地域包括ケアシステム研修会」 ＜参加申込書＞

日 時：令和6年2月2日(金) 19:00-20:00  
場 所：沖縄県医師会 3階ホール  
形 式：ハイブリッド開催(現地参加・WEB参加)  
対 象：在宅医療に携わる医療機関担当者等  
講 師：台湾在宅医療学会理事長 余 尚儒先生  
演 題：次世代の在宅医療～Hybrid care と Hospital at home in Taiwan～

施設名	氏名	職種	参加形式
		<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 訪問看護師 <input type="checkbox"/> 事務 その他( )	現地 WEB
		<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 訪問看護師 <input type="checkbox"/> 事務 その他( )	現地 WEB
		<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 訪問看護師 <input type="checkbox"/> 事務 その他( )	現地 WEB
【事前質問】			

※Zoom 参加アドレスや配布資料等は以下の URL に掲載致します。

※資料は準備の都合上、当日になる可能性がありますのでご了承ください。

下記の QR コードよりアクセスまたは URL を直接入力して、ご確認いただきますようお願い致します。

【タイトル：沖縄県医師会 在宅医療】

<https://x.gd/r14Ra>



余 尚 儒  
よ しょうじゅ

## 沖縄県医師会地域包括ケアシステム研修会

日時：令和6年2月2日(金) 19:00~20:00

場所：沖縄県医師会

### 演題名：次世代の在宅医療：Hybrid care と Hospital at home in Taiwan

#### 抄録本文：

台湾の高齢化率は日本よりも速く進んでおり、2060年には日本と同じ高齢化率に達する予測です。在宅医療の需要はますます増加しており、パンデミック後の時代になって、遠隔照護の重要性をより深く認識するようになりました。遠隔患者監視（Remote patient monitoring, RPM）ツールの活用、日常的な対面による訪問診療及びオンライン診療の組み合わせという「Hybrid care」と呼ばれます。したがって、在宅医療と遠隔照護の共通の本質は、「医療の利便性の問題を解決する」ことです。

在宅入院（Hospital at home, HaH）の最も広義の定義は、日常生活の場所で病院に近い水準の治療を提供することであり、逆に言えば、患者は病院に行かずに入院のサービスを受けることができます。新型コロナウイルスパンデミック期間中、HaHは医療機関の混雑緩和や過負荷解消に有効な解決策となりました。ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアの医療システムでは、「入院代替」として認められていました。ただし、各国の医療システムの違いにより、Hospital at homeのサービス内容も異なる場合があります。台湾では正式なHaH制度はないものの、少数のクリニックが患者のニーズを見極めて自発的にHaHのサービスを提供しています。

台湾在宅医療学会が主導する研究計画によると、70%の在宅患者が緊急事態に遭遇し、HaHの需要があることが判明しています。新型コロナウイルスの流行後、医療技術と遠隔機器の進歩に伴い、Hospital at home と Hybrid care の2つの概念が融合した後、急性および重症患者が自宅で病院と同等の治療を受ける様子や広範なRPMの活用を目的とする一方で、台湾の全民医療保険は2024年から在宅急症ケアモデル事業が開始して、次世代の在宅医療が明らかに浮かび上がってきています。

## 略歴:

台湾の在宅医療の先駆者であり、台湾在宅医療学会の創設理事長であり、ホームクリニック都蘭の所長です。2015年以降、何度も日本の在宅医療を訪れた後、2017年には勇美記念財団の「勇美賞」などを受賞しています。2017年には、家族とともに台東へき地に移住し、在宅医療を中心に運営する台湾初の診療所を開設し、在宅医療を推進して共生社会を構築し、共生社会を目指しています。専門分野を横断した協力や非公式なケアシステムを組み合わせた、温かみのある地域包括ケアモデルを推進することを主張しています。2020年、在宅医療と遠隔診療の協力し、国のモデル事業を発足させ、2021年には、社団法人都蘭診療所陪你回家協会を発足させ、台湾が早急に在宅医療の成熟した体制を整え、共生社会に向けて進んでいくことを期待しています。

著書には、「在宅医療:Cure から Care へ」「コミュニティの新しい視点:新世代の健康戦略 4.0」

受賞には、2015年には公共テレビ局の「市民ニュース賞」、2017年には勇美記念財団の「勇美賞」などを受賞しています。